資料4

# 有識者ヒアリング調査 結果ポイント（中間報告）

## １．調査概要・調査対象

本市が目指すヘルスケアの振興にむけた可能性や課題、推進方策等についてご助言を頂くことを目的に、本協議会委員やオブザーバを中心に、ヘルスケア分野の有識者やその他関係者等にヒアリング調査を行った。

なお、今回は計画策定に先立って実施したが、今後も本計画の検討内容に応じて、引き続き各分野の有識者や専門家等への調査の実施を予定している。

## ２．調査結果（ポイント）

### 生かすべき蒲郡市の強み、特色

**【１】温泉・レジャー施設**

・他市にはない強みとして、温泉やレジャー施設があることを生かすべきだ。

**【２】みかん、あさりなどの食資源**

・みかんやいちごなどの特産品を、地元の住民はもっと大事にするべき。安いイメージがあってもったいない。

・みかんには様々な効用があると言われているので、それらを生かして事業化を見据えた6次産業化などにつなげていきたい。

・アワビの陸上養殖についても、産学官連携による新たな事業として進めている。

**【３】地勢学的に独立したエリアにある**

・海と山に囲まれて、ある程度閉じられて独立した場所に立地しており、名古屋からも40分程でアクセスできる。

**【４】ウォーキングに適した五井山**

・五井山は、適度な標高で眺望もよく、冬は雪も少ないことから、ウォーキングなどの健康づくりに適している。

**【５】ヘルスケア関連企業の集積**

・ニデック、ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングなどのオンリーワンのヘルスケア関連企業が立地していることが強み。

**【６】高齢化率が高いことアドバンテージとして、高齢化のモデル都市に**

・高齢化率が高いことはマイナス面ばかりでなく、高齢者がいつまでもイキイキと楽しく前向きに生きていける先進的なモデル都市になりうる。

・高齢者が元気なまちは保険料も安くなる。

**【７】糖尿病などの健康課題**

・糖尿病や高血圧が高いというイメージが、みかんやレジャーなどの楽しそうな都市イメー

ジや産業にもマイナスに働きかねない。

## ヘルスケア関連の取組

### 【１】癒しとアンチエイジング推進協議会での取組

・60 社が参加して、観光をプラットフォームにして様々な事業に取り組んでいる。事業化が課題となっている。

・健康がまごおり 21 との連携を図っていくことも課題となっている。

### 【２】がまごおり産学官ネットワーク会議

・愛知工科大学と地元中小企業の交流やマッチングを図っている。

・アワビの陸上養殖についても、産学官連携による新たな事業として進めている。

## 目的・目標、目指すべき将来像、ターゲット

### 【１】「イキイキ楽しく元気になれるまち」健康・長寿のモデル都市

・高齢者が「楽しく」セカンドライフを送りながら、健康意識を高めて介護度を上げないような、そんな高齢者の理想のライフスタイルが過ごせるまちを目指したらどうか。

・「豊かな暮らしが送れる」というイメージと、そのためのサービスをセットで提供したい。

・「リタイアメントコミュニティ」の健康・長寿のための「コンパクトな実証地（モデル都市）」として国・県にも支援してもらいたい。

・住むほどに元気になれる住宅、乗るほどに元気になれる車などがあると良い。

### 【２】楽しくアクティブで健康的な都市イメージを「地域ブランド」にする

・潮干狩りやみかん狩り、レジャー施設など、楽しい都市イメージが強い。

・ターゲットが中高年向けだとしても、あまりシルバーのまちというイメージではなく、あくまで若いアクティブなイメージで展開していくべきだ。

・「蒲郡＝健康」という「地域ブランド」を確立することで、食料品や衣料品などの様々な商品開発にもプラスに働くことが期待できる。

### 【３】国内外のマーケットへ発信していく

・人口８万人の蒲郡市だけで完結させるという発想では限界がある。外からのお客さんを誘致する必要があり、アンチエイジングの取組でも全国大会の誘致などを目指している。

・少なくとも、東三河や名古屋の市場を意識した取り組みにする必要があるし、さらに東京や大阪、海外からの富裕層などがターゲットとして考えられる。

・家族をターゲットにして、お年寄りは治療、親や健康づくり、子どもはレジャー施設といった多様な楽しみ方を提供することができる。

### 【４】市民の利益に配慮すること

・「住民にとってよいことか？」「自分がやってもらって嬉しいかどうか？」を常に考えながら計画策定・推進を図るべき。

・身近な場所で高度医療が受けられるような病院が身近な場所に整備されると、遠方にある豊橋や名古屋の病院を使っている市民にはありがたい。

・国内最高の設備を備えた「健診センター」を整備することで、市民の健康増進にも役立ててもらうことも考えられる。
・新たな企業誘致・産業集積による「財政力アップ」や「雇用創出」によって、現状の福祉サービスを維持できることや、新たな医療サービスの提供にもつながることが、市民にとっての利益となるのではないか。つまり「お金を生むこと」が市民にも還元される。
・温泉やレジャー施設をはじめ、今回の事業が、外の人のためだけでなく、市民にとっても楽しみやプラスの価値を提供してくるものにするべき。関わった市民が健康になれるといい。

## 施策提言、推進方策等

### 【１】市民の「健康マインド」を高める

・どんな年齢でも健康状態でも、健康づくりは必ず必要なことである。

・あまりストイックにやる必要はないが、健康づくりを意識化させて健康マインドを高めることが不可欠である。子どもの頃から健康リテラリー（ヘルスリテラシー）を高める教育が大事ではないか。

・仲間づくりもしながら、楽しんで健康になれることが望ましい。そのために、ラグーナや温泉、食などの楽しい地域資源を生かすことができる。

・自分のことを自分でやる、いつまでも元気で働ける、そんな本人の意欲や尊厳を尊重するような住民の意識づくりやまちづくりを進めることが大事。

・健康は大きな財産であり、健康管理は大事な仕事そのものである、という意識づけが大切。病気は、本人にとっても会社にとっても自治体にとっても高コストである。

・市民が好きなことに関心をもつことが、行動が変わるきっかけになる。ダメと決めつけず、日常の中でできるちょっとした取り組みを褒めて自信をつけさせてあげることが必要。

・アンチエイジングの取組とも連携を図って、市民の健康づくりを進めるべき。

・健康づくりの一環としてまちづくりに参画し、そこで役立ち感などを得ながら心身ともに元気になり、地域への愛着も高めていくような地域との関わりが大事ではないか。

### 【２】特定分野に特化したヘルスケア産業の集積（クラスターの形成）

・立地することのメリットを創出することが難しい。本市に暮らすことの魅力も含めて、複数の施策をパッケージ化して魅力をつくる必要がある。

・市民病院付近や臨海部などでの展開が考えられる。

・本市には、それほど大規模な工場用地がなく、企業立地における他都市との比較優位性も乏しいことから、「再生医療」などの何かのテーマに特化した強み、目玉が不可欠である。

・単独の企業では、すそ野が広がりにくく弱い。ものづくりの実績や集積を生かした再生医療の自動化などを支援するとともに、ヘルスケア分野のベンチャー企業なども誘致して、特色のある集積を図る必要がある。

・ヘルスケアを地域経済の発展につなげるために、研究開発だけでなく、民間企業と連携して産業化・事業化を図るべき。

・民間事業者が進出しやすくなるために、どんな環境条件や行政の支援が求められるか検討してはどうか。

・特区を作ることをはじめから考えるより、あくまでそれはツールの一つと考え、いろいろな規制への対応策を考えた方が良い。

### 【３】蒲郡でしかできない「再生医療」の集積・誘致

・「再生医療」はヘルスケア産業クラスターの看板としてはいいのではないか。

・現状では、治験で時間がかかるとともに、自家培養表皮の場合は重度の熱傷患者にしか使えないこと、混合診療が認められていないことなどから、国内では市場が限定されている。

・国としても再生医療実用化への特区を推進していく方向にあるようなので、本市としても

例えば特区による事業推進なども考えてみてはどうか。

・「自家細胞による再生」「テーラーメイド医療」「創薬」などを強調するといった方向もある。そのために医工連携を推し進め、例えば手術に必要な試薬や培養装置、輸送車両などの器具製造など、周辺産業の集積を図ることが考えられる。ただし、規模は限定的である。

・国家レベルの研究施設を持ってきて最先端で世界と競争できる取り組みでないとダメ。ましてや、神戸をはじめ再生医療をテーマに進めている先進都市も多く、何か特色を持たせなければ都市間競争に負けてしまう。再生医療全般を目指すのは無理があり、付け焼刃的な中途半端なものはやらないほうがよい。

・今後、再生医療分野が軽度な治療や整形、美容等にも用途が広がっていけば需要は見込める。韓国は非常に進んでいると聞く。

・軟骨の治療については、術後のリハビリ期間の滞在療養等も新たなビジネスとなりうるのではないか。

・ただし、機械化・自動化が進んでいるので集積による雇用効果は限定的である。

・再生医療をテーマに産業化を図っていくなら、やはり「病院」が不可欠である。新たな病院を誘致するのか、または市民病院との連携を考えるのか。

・再生医療は蒲郡のポテンシャルを活かせる分野ではないか。

## 【４】新産業としての総合的な医療・予防サービスの提供

・高齢化が進み、病気になる前の疾病予防や介護予防のための対策への需要は大きい。

・フィリピンなどでは、リゾートで滞在型の健康づくりを行っている。地元企業の検査機器などを導入した国内最高水準の「健診センター」を設けて、市民病院などとも連携して、滞在型で健康・予防に対応する医療ツーリズムなども視野に入れるべきだ。

・富裕層向けに、健診や治療、旅館や温泉、ノルディックウォークなどの資源を組み合わせて、長期滞在型によるリハビリ、メタボ対策やデトックスなどの「アンチエイジングドッグ」の事業を展開できないか。

・インプラントや皮膚の移植、形成などの安全な美容医療を施して「きれいになって帰る」というコンセプトも考えられる。若い時の細胞を「細胞バンク」に残しておいて、自家培養して再生医療による若返りに生かすというアイデアもある。

・風光明媚な場所で温泉なども活用して、例えばロコモティブシンドローム（運動器症候群）で動けなくなった方のヒザ軟骨の治療やリハビリ、美容のための皮膚移植などを行い、イキイキと若返ることができるまちを目指したらどうか。

・危険度がより高い者に対して、その危険度を下げるよう働きかけをして病気を予防するハイリスクアプローチと、集団全体に対して働きかけるたりそのための環境整備を行うポピュレーションアプローチがある。両方を適切に組み合わせることを通じた健康予防の取組のモデルを目指したらどうか。

## 【５】核となる拠点施設の必要性

・研究機関は、とくに医療分野では単独では機能しにくい。誘因効果のある研究所が核となって、相互作用が生じることでリサーチタウンになっていく。著名な先生や研究者を看板としてひっぱってくることも必要だ。

・外部からみてもシンボルとなるような、例えば再生医療病院などの専門医療機関のような中核施設がほしい。病院は労働集約型の典型であるので、雇用創出効果は高い。
・治験や臨床の場としての新たな病院や研究施設の誘致などが考えられる。
・国家レベルの研究施設を持ってきて最先端で世界と競争できる取り組みでないとダメ。

**【６】サービス付高齢者向け住宅などの受皿づくり**

・今後、医療度が高い終末期の受皿不足が懸念されることから、老人ホーム等とは異なる安価な受皿が求められる。蒲郡のリゾート的なイメージを生かして QOL の高い魅力的な施設を整備して、高齢者も住みやすいまちづくりを進めたらどうか。
・パーソナルトレーニング（食、運動）のためにアクティブシニアが入居することも増えてくるであろう。ただし、わざわざ移住する理由が弱いので、週末型の二地域居住なども考えられる。

**【７】健康という「地域ブランド」を生かした商品開発**

・今後、健康づくりを軸としたプロダクツへの需要が高まってくる。
・健康産業都市という「地域ブランド（都市イメージ）」を生かして、市民も実証実験やモニタリングなどに参加できるとともに、健康の維持・増進に資する商品の製造販売など、蒲郡発の様々な商品開発を促していくことも考えられる。
・オーダーメイドのジュースづくりなどのアイデアも考えられる。

**【８】医療情報の共有や健康管理などに役立つスマートシティ**

・ウォーキングなどの健康づくりのデータや日頃の食事のカロリー、スマートトイレからの健康状態のデータなどが、病院と家庭・個人の間で ICT の技術を使って共有され、日頃の健康管理や介護予防などに生かされるための情報基盤づくりが大事である。
・仙台で進められている「F グリッド構想」なども参考に、電子カルテの医療情報をネットワーク化したり、省エネや再生可能エネルギー利用を推進して安定したエネルギー制御の仕組みづくりを進めるなど、スマートシティ的なインフラ整備が必要ではないか。
・ICT 等も活用しながら、省エネやバリアフリー、生活拠点集約化など、安全で安心、健康に暮らせる次世代型のスマートウェルネス住宅・スマートウェルネスシティの構築を目指したらどうか。

**【９】地元の雇用創出にも役立つ機能性食品・野菜の開発**

・例えば糖尿病患者なども接種できるような機能性野菜の工場（植物工場）を建設して、医療機関や長期滞在施設、市民に提供するとともに、そこを高齢者雇用の場として活用する。
・不整形で廃棄となっているみかんなどを有効活用して機能性食品を開発するなど、付加価値をつけながら地産地消を進める。

**【10】補完代替医療のモデルエリア**

・西洋医療と東洋医療の統合医療について、徐々に社会的な関心も高まっている。補完代替医療のモデルエリアとして、東洋医療によるリハビリやデトックスなどが受けられる場所にするというアイデアもある。

**【11】蒲郡市としての振興方策の検討**

・市としての方針や覚悟を示す必要がある。また、本気で進めていくならスピード感を持って都市間競争に打ち勝つような真剣な取り組みが求められる。
・平成 24 年度に県が中小企業振興条例を策定している。市でも同様に中小企業振興条例を制定して、その上で様々な施策を推進するべきではないか。
・産業振興における市の役割は、単なる民間企業の手伝いだけではない。積極的に施策を打つべきである。
・大阪府吹田市では、吹田操車場跡地への医療クラスター拠点のゾーン形成に向けて、バイオ・ライフサイエンス産業等を対象に吹田市企業立地促進条例を制定している。
・首長や行政職員から、市民と同じ目線に立って等身大で健康づくりに取組んでいくことが大事。
・街のビジョンだけではなかなか、その後の展開に結びつきづらい。

**【12】市民病院との連携**

・先端的研究と医療機関（治験、臨床）が一体のものとして必要である。
・市民病院の経営や役割を強化する上でも、ヘルスケア振興のネットワークの拠点として、例えば治験や長期医療の受入などの役割が期待される。難しければ新たな医療機関の誘致も必要になってくる。

## 推進に向けた課題、方策など

**【１】「健康がまごおり 21」との住み分け**

・健康・予防の具体的な施策・事業は健康 21 で描いていけばよいが、予防医療などの医療面のことについては健康 21 では書けないので、大きな方針はヘルスケア計画で描く必要がある。
・健康がまごおり 21 では市民の意識づけが中心となる。健康がまごおり２１の活動以外にも、全庁的・横断的なアプローチもしていけると良い。

**【２】市が率先して健康づくりをリードすべき**

・行政職員から、市民と同じ目線に立って等身大で健康づくりに取組んでいくことが大事。

**【３】市民の参加・協力が不可欠**

・市民との協働が不可欠である。

**【４】産学官の連携**

・東三河広域経済連合会が新たに発足し、そこに「自動車」と「人材育成」と「ヘルスケア」の３つの部会が設立される予定である。
・産学官の誰が何をするのか、それぞれの役割を考えていくと良いのではないか。

**【５】評価・検証できる仕組み**

・きちんと現状値を押さえておいて、進捗状況を見える化しておくこと、他市町などの動きを見ながら蒲郡市の相対的なポジションを押さえておく必要がある。
・そもそもまったくの夢ではなく、実現可能なビジョンとして策定するべき。

## その他

### 【１】駅周辺の活性化

・利便性の高い駅周辺の都心居住を含めた再開発を進めて、賑わいをつくりたい。

・シティプロモーションを積極的に行って、外から人を呼び込まないといけない。

### 【２】海を生かした観光振興策の見直し

・竹島を市民の憩いの場として見直す。

・海岸線の動線を見直して、海岸線を全て歩けるまちとする。

・大塚周辺やラグーナの「エンターテイメント」、海の文学館などの「文化」、競艇などの「ボートパーク」を３つの観光拠点として生かしていきたい。

・駅から海までとても近いのに、移動空間が無機質で歩いてもあまり楽しくない。海との近さや移動の楽しさを演出したらどうか。